

	7月	8月	9月	10月	11月	12月
令和2年	97	75	95	98	82	69
平成元年	76	95	84	63	83	67
前年比	+21	-20	+11	+35	-1	+2

令和2年に北海道で最も自殺者の少なかった月は2月の67人でした。逆に最も多かった月は10月の98人でした。前年比において最も自殺者が減少したのは、5月の25人、逆に最も増加したのは10月の35人でした。

参考文献

「令和2年中における自殺の状況」、2021、厚生労働省・援護局総務課自殺対策推進室 警察庁生活安全局生活安全企画課

【2】自殺について知ろう・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

◇後期高齢者層における自殺をめぐる状況[令和2年版自殺対策白書]◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

前回のAndanteでは、『令和2年版 自殺対策白書』の「第2章 自殺対策の基本的な枠組みと中高年、高齢者の自殺をめぐる状況」の中から「第三節 前期高齢者層における自殺をめぐる状況」についてご紹介しました。

今回は、1月から3回に渡って連載させて頂いた「第2章 自殺対策の基本的な枠組みと中高年、高齢者の自殺をめぐる状況」の最後となる「第四節 後期高齢者層における自殺をめぐる状況」についてご紹介したいと思います。紙面の都合上、一部修正、抜粋する形となりますので、より詳細な内容については本書の方をご参照下さい。

1. 平成21年以降の後期高齢者（75歳以上）における自殺者数及び自殺死亡率について

自殺者数の推移をみると、平成25年の4,244人をピークに減少傾向が続き、令和元年は3,485人となっています。ピーク時から759人（17.9%）の減少となりました。

自殺死亡率の推移をみると、平成21年の29.7から令和元年は10.9ポイント低下の18.8となっています。平成21年の後期高齢者の自殺死亡率は全体の自殺死亡率と比べ4.1ポイント高く、以後差は拡大し、平成25年に5.8ポイント高くなったのをピークに、令和元年ではその差は3.0ポイントまで小さくなっています。

(単位：人、()内10万人対自殺死亡率)

	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年
全体	32,768 (25.6)	31,581 (24.7)	30,608 (23.9)	27,809 (21.8)
後期高齢者	4,076 (29.7)	4,097 (28.9)	4,137 (28.1)	4,082 (26.9)

	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年
全体	27,215 (21.4)	25,418 (20.0)	23,964 (18.9)	21,870 (17.2)
後期高齢者	4,244 (27.2)	4,018 (25.2)	3,991 (24.5)	3,653 (21.6)

	平成 29 年	平成 30 年	令和元年
全体	21,286 (16.8)	20,820 (16.5)	19,974 (15.8)
後期高齢者	3,607 (20.6)	3,688 (20.5)	3,485 (18.8)

2. 平成 21 年以降の後期高齢者における自殺の原因・動機について

原因・動機の推移をみると、多くを健康問題が占めています。健康問題及び家庭問題は、平成 22 年をピークに減少傾向にあり、令和元年は平成 22 年から約 2 割弱の減少となっています。経済・生活問題は、140～170 人台で推移しています。

原因・動機の小分類について、平成 21 年から令和元年までの総和に対して、原因・動機特定自殺者数の総和で計上割合を算出し、上位 10 位までを男女別 5 区分で整理してみました。後期高齢者男性全体では、第 1 位が身体の病気、第 2 位がうつ病で、第 3 位がその他の精神疾患と健康問題が上位を占めています。項目数では上位 10 位のうち、健康問題が 5 項目、家庭問題が 3 項目、経済・生活問題が 1 項目、その他が 1 項目となりました。

(単位：人)

	平成 21 年	平成 22 年	平成 23 年	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年
家庭問題	618	654	651	619	630	614
健康問題	2,808	2,858	2,758	2,769	2,804	2,693
経済・生活問題	147	163	156	171	164	145
勤務問題	6	6	15	19	13	10
男女問題	13	12	6	6	7	5
学校問題	0	0	0	0	0	0
その他	295	293	297	271	274	251

	平成 27 年	平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年	令和元年
家庭問題	599	571	555	598	533
健康問題	2,619	2,437	2,421	2,434	2,360
経済・生活問題	160	159	156	146	174
勤務問題	18	9	16	14	16
男女問題	8	4	6	8	4
学校問題	0	0	0	0	0
その他	278	223	239	232	207

後期高齢者の自殺についてまとめると、中年や前期高齢者と比較すると減少幅は大きくありませんが、中年や前期高齢者と同様に、後期高齢者の自殺についても大幅に減少しています。後期高齢者の原因・動機別自殺は、健康問題が大多数を占めており、男女を問わず身体の

病気によるものが最も多くなっています。また、男女を問わず家族の死亡、孤独感、家族の将来悲観、介護・看護疲れ等の家族問題によるものが多く、年齢が上がるほどに孤独感による自殺が増えることも後期高齢者の自殺の特徴の一つと考えられています。

今後の取組として、後期高齢者は身体の病気による自殺とともに、孤独感、家族の死亡、介護・看護疲れ等によるものが多くなっています。介護に対する支援、高齢者の介護予防や社会参加の推進、地域における見守り活動の推進、地域住民と公的な関係機関の共働による包括的な支援体制づくりを進めていくことが重要です。

最後に、中高年、前期高齢者、後期高齢者を通じて、「自殺総合対策大綱に基づき、「生きることの包括的な支援」に、国、地方公共団体、民間団体等が連携しながら取り組んでいくことが求められている。折しも第201通常国会において地域共生社会の実現のための社会福祉法等の一部を改正する法律が成立し、今後、地域住民の複雑化・複合化した支援ニーズに対応する市町村の包括的な支援体制の構築が進められることとなったところであり、地域における自殺対策も地域共生社会の取組と一体的に行われることが重要である。自殺は様々な要因により引き起こされるものであり、ここに掲げた課題等が全てを網羅しているものではない。そのため、引き続き自殺の状況を把握するとともに、対策の効果検証を行い、見直しを行っていくことが必要である」とまとめられています。

参考文献

厚生労働省、『令和2年版 自殺対策白書』、2020

【3】お知らせ

◇ 精神保健福祉センターでは、こころの電話相談を次の時間帯で行っています。

月曜から金曜日 9:00～21:00

土曜日・日曜日（12月29日～1月3日を除く） 10:00～16:00

Tel : 0570-064-556

※ご相談の電話が集中しますと、つながりづらい状態になりますがご了承ください。

◇ ホームページをご覧ください

北海道地域自殺対策推進センターのホームページを開設しています。最新の北海道の状況を掲載しており、より情報を見やすく、分かりやすくお伝えできるよう心がけています。また、Andanteのバックナンバーへのリンクもございますので是非ご覧ください。

パソコンホームページ URL : <http://www.pref.hokkaido.lg.jp/hf/sfc/jisatutaisaku.htm>

【4】編集後記

北海道でも雪は溶け春らしい気候となってきました。

春は別れと出会いの季節です。当センターでも、異動や退職があり、慣れ親しんだ方との別れは寂しいものですが、新しい出会いを期待したいと思います。

さて、今回のAndanteでも取り上げましたが、警察庁自殺統計の確定値が発表されました。

今回は大きく、男女別、月別の自殺者数をまとめましたが、今後は職業別や年齢別などより詳細なデータについても取り上げる予定です。これらのデータは警察庁のホームページや厚生労働省の自殺対策のページで公開されているものとなっています。興味のある方はそちらもご参照下さい。

いつもご愛読ありがとうございます。

次号 Vol.142 は、令和3年4月末に配信予定です。

お問い合わせ先

北海道立精神保健福祉センター
札幌市白石区本通16丁目北6番34号

Tel 011-864-7121

Fax 011-864-9546

URL <http://www.pref.hokkaido.lg.jp/hf/sfc/>

Mail hofuku.seishin1@pref.hokkaido.lg.jp